

---

# ペルソナ 4 の世界へ…

モアナラニ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ペルソナ4の世界へ…

### 【ZPDF】

Z0550Z

### 【作者名】

モアナラニ

### 【あらすじ】

この作品はペルソナ4の一次元創作小説です。

…「よく普通の生活を送っていた藤咲彩花は、突然ペルソナ4の世界に飛ばされてしまう。「なんか良く出来てるな…、ま、いつか！」目指せ！一人も欠けずにハッピーエンド！  
ネタバレをしてこますので、あしからず。

## 0・0 目次紹介（前書き）

こんにちわー。モアナクーですー。

小説初投稿なために、

誤字、脱字などがござるしていると思います…(・□・・)

なるべく無いようにしますが、字が間違っていたらご指摘お願いします。

一ヶ月を田安にて一話ずつ投稿してこきますので、よろしくお願いします！

## 0 - 0 自己紹介

今作の主人公設定です。

藤咲 彩花

フジサキ アヤカ

若干才タク(気味の18歳)。(高3)

ペルソナ3、ペルソナ3フェス、ペルソナ4、ペルソナ3ポータブル完全攻略済み。

ペルソナ4の世界に来てからは高2として生活するため、17歳と言ふ事になっている。(そのため、学力は天才)

制服の着崩しは無いですが、制服の上にポンチョのようなものを羽織っています。

ステータス

学力: 天才

寛容さ: 救世主

根気: 半端ない

勇気: 漢

伝達力: 言霊使い

魅力: 美しき悪魔

…要するに無敵ってことです。

ペルソナステータス

ペルソナ名: 濑織津比売

セオリツヒメ

速佐須良比売

ハヤサスラヒメ

初期レベル: 25

アルカナ: 女帝

力21・魔25・耐19・速20・運28

H P 217・S P 264

外見は彩花がペルソナを出した時に追加していく予定。

…こんな感じです。

彩花の性格は優しめ、だけど毒舌、自分に自信を持っている女の子です。

武器は斧です。（持ち手を除いて縦23cm横25cm？持ち手を入れれば縦39cm？ぐらー）

髪色は赤毛に近い茶色で、目は薄茶です。（ちょいどり4の主人公の目の色を灰から茶にした感じ【多分】）

髪型はハーフアップでふくらはぎに髪が届くぐらいの長髪です。身長164cm、体重は秘密…です。

P4の主人公の名前は瀬田セタ 総司です。

これから頑張りますので、よろしくお願いします！

## 0・0自画紹介（後書き）

更新完了クマー！  
感想待ってるクマー！

### 1-1 始まりは突然に（前書き）

自己紹介の後書き……はつちやけてた……？  
かーんーそーうーまーつーテーマ スー  
…え、ああ、はい。第一話です。短いです。かなり。  
(。口。)

## 1・1 始まりは突然に

「…、なんで私はここにいるんだね?」

2010年、6月9日、曇り。

別に、記憶喪失になつたわけではない。おかしいのだ。  
よく考えてみたら、こんなことになつてている理由がぼんやりわかつ  
てきた。

そう、あれは確かほんの2分前ぐらいだったと思つ。

私は、定期テストが終わつてゲームを解禁になつたため、大喜びで  
ペルソナ4をやつていた。

気が付くともう遅い時間になつていたため、ゲームをやめ、寝よう  
としたが、その前にごみを捨てに行つた。

階段を降り、ごみ捨て場にごみを捨てる。

今思うとなぜごみを捨てに行こうとしたのかわからない。  
でも当然、何も起こらないはず、だった。

捨てて、もうそろそろエンディングなペルソナ4の続きをやる、そ  
のはずだった。

…起こつてしまつたのだ。

ふさがれる口に、私は驚きの感情しか出なかつた。

「や……、み……けま……。」

何か、人の声が聞こえた気がした。

「こつから先の記憶がないんだよなあ…」

彩花は大きなため息をついて、ゆっくり歩きだした。

とにかく、状況を整理しなければ…

・とりあえず、自分がいた世界ではなさそう

・日にち、時間が違う

わからない事は…

・「…」

・もしも、違う世界ならこれからどうやって過るか?

「…、なんか、ペルソナ4の世界に似てない?」

なんとなく、そう思った。

私は立っている場所から周りを見渡した。ふむ、似てなくもない。商店街が見える。左に見るのはだいだら…だらう。

「ほんとにどうしよう…」

そうつぶやいた時、突然電子音が鳴り響いた。

## 1 - 1 始まりは突然に（後書き）

なんかほかの方よりもかなり短い気がする…  
もう少し頑張ろう（。▽。・）うん。  
感想待つてます…

## 1 - 2 思えば今（前書き）

ちょっとぴり時間が空いてしまった…  
でも…でも…データが消えたんだもの…  
現実逃避中でした！

## 1・2 思えば今

「うわっ！」

「ピリリリリリ！」

「なんだ、携帯か…」

あれ？なぜに携帯？…バッグも…、ああハイ、そうゆつ設定ね。

「メールか、え…『お母さん』！？」

違う！私はいつもママ、と呼んでいる…

「つてそういうじゃないし…」

「もう八十稻葉には着いた？荷物に地図があるから、赤い丸のついてる場所に行つてね。話は通してあるから？ごめんね、急に一人で一年暮らせだなんて、でも彩花なら大丈夫ね。でも、八十稻葉高校だつけ？そこ、なんか連續殺人事件あるみたいだから気を付けてね～。ああ、あとは…、2年に進級なのよね。制服かわいかつたわあ？また連絡するわネ。」

…大丈夫じゃないいいい！

「八十稻葉…じゃあやつぱりペルソナ4の…、日にちは6月9日か

…ふむ。」

「…うん、とりあえず、行こー！」

このままでは何も始まらない、とにかく落ち着いて衣食住を確保しなければ！

はい、迷いました！

「…どうじよつ…」ちかなあ？」

怪しい、怪しそうさがる。でもこの道な気がする。

…やはり方向音痴の私に地図と寮の写真だけと言つのはさすがに無理がある。

「はあ……」

「あの、大丈夫ですか？」

！ジモテイ な人だ！助かつたー！

「あ……、ちょっと道に迷っちゃって……、ここなんですけど、……！」

P 4 主人公だ！！！

「？良ければ案内しますよ。」

「え、あ、お願ひします！」

主人公…いい人だ。

というか名前はどうするんだ？候補は月森孝介、瀬田総司、鳴神悠

（シキモリコウスケ）

（セタソウジ）

（ナルカミユウ）

ぐら）だらうけど。

「あの……着きましたよ？」

「え？あ！ほんとだあ！」

写真と見比べてみると、確かに同じだ！

「ありがとう」ぞこます！」

「いや、お礼を言われるぐらいじゃないですよ。」

あ、そだ名前名前。

「あの、私藤咲彩花つて言います。あなたは？」

「俺は瀬田総司。よろしくお願ひします。」

「うん、よろしくね！（瀬田総司か…漫画版ね。）」

「あ、そうだ！敬語使わなくていいよ、同じ年だと思つし。（実際は違うけど。）」

「え、ああ。（年上だと思つてた……）」

「私、明日から八十稻葉高校2年に転入するの。その制服、八十稻葉高校のでしよう？」

「うん。」

「じゃあ、改めてよろしくね瀬田君！」

握手のお手手～よし～やばい、チヨー嬉しい～！

シャアアン！

「…（「!!コ！？私のもあるんだ！）」

く瀬田総司は『世界』（ワールド）、『藤咲彩花』（ツバキカラヒコ）ティを手に入れた！

「ワールド  
世界が…ペルソナ4じゃ出でこない『//』だな…」

「え？」

「ううん、なんでもないーーじゃあねーー（びっくりしたー、気づかれたかと思った…）」

## 1 - 2 思えば今（後書き）

おおお、やつと話がつながってきました――――――  
よし、頑張ろー！  
感想  
一言待つてまーす！

### 1 - 3 天国○「地獄？」（前書き）

…またデータ消えた…  
いいです、めげません。  
…頑張るもん！

### 1・3 天国。地獄？

「おおーーー！」

赤いドアを開けると前には…

「結構きれいな建物なんだなー」

薄い赤の壁紙、白い天井、赤い絨毯が敷かれた床。

「てか、富殿？」

「あらあ、そう言つてくれると嬉しいわあ？」

「誰ですか？」

「落ち着いてるのねえ、そうゆう子嫌いじゃないわあ。あたしは大竹

友見。この『ラ・フルール』の大家よ～」

「（大家さんか…。びっくりさせないで下さいよ～）私はこれから一年ここに住まわしてもらう、藤咲彩花です。」

「ああ、はいはい、話はあなたのお母さんから聞いてるわ。あなた  
の部屋はね～ここなんだけ～地図だと分かりにく～から実際に案  
内するわあ、ついてきて～」

「あ、はい。」

「うーん、硬いわねえ。敬語なんて使わなくていいわよお～。だ  
つてあたしまだ20才なもの～3つしか違わないじゃない！友見で  
いいわつ？あとは、名前が彩花なんだから…、そうだわ！彩ちゃん  
でいいかしら？」

「…は、じゃなかつた、うん…よろしくね、友見！」

「ええ、よろしく。つと…、少し話が長くなりすぎたかしら？今日は荷物の整理もあるしもうそろそろ準備したほうがいいわね。学校は来週からでいいらしいからね？」

「わかった、じゃあ、また。」

「（大竹友見…20歳つて…ほんとのかな？でも、いい人だね！）

「

ガチャリ

「わあ…すごい、広い！」

### 1・3 天国。地獄？（後書き）

あとで0・0に付け足しますが、彩花は毒舌じやなくなりそうですね。

不思議ちゃん系？てゆうかめっちゃ冷静な感じになりそうwww

彩花のシャドウ出すか迷い中～。良ければ一言で出すか出さないかヒントをくださるとうれしいです。

## 1・4 光・ヒカリ・ひかり（前書き）

え？ タイトル意味わかんないって？

スルーしてください。

いいんです。やつと主要人物だせるしね！

## 1・4 光・ヒカリ・ひかり

す”い、す”いかかる。

「広い——！」

普通のマンションに見劣りしないぐらいに。

「なんか主人公補正？」

なわけないか、瀬田君いるし。

でも、主人公補正っぽいよね。だって、す”いよ。玄関はめっちゃ広い。なんか靴箱も巨大。

「とりあえず中に…って左に道（？）があるけど右にドアがあるんですけど…」

なんか気になるので左へ行くことにした。

段差を一段上がりつて右へ行く。すると応接間？があつた。角にキャビネット的な物がある。真ん中にはテーブル。  
「つながってるんだ…。？右にドアがある。」

力チャヤツ

「ほう。廊下か。」

そのままなんとなく右に進む。するとまたドア。

「ドア多くね？覚えるの大変そつ…」

力チャヤリ

「あれ？」

目の前には玄関。はつ、もしや最初にあつた右にあるドアとはこのことか！

「す”い、つながってるんだ…。つて早く戻る。」

ドアを開けて廊下を小走りで戻る。そしてそのまままっすぐ進む。しばらく進むと分かれ道。まっすぐ進む道と右に曲がる道がある。

「うーん…よし、右！」

右に曲がってしばらく進むと廊下はそこで行き止まりで、右だと左にドアがあった。

「左に進もう。…て言つかる」「…ね、なんかこんな家見たことなんてなかつたのに。ヤバ、テンションあがつてきた！」  
勢いよく左のドアを開ける。

力チャツ！

「お風呂場かな？…あ、洗濯機がこんなところに！」

お風呂場（脱衣所）に入つてすぐ右には洗濯機があつて、左にはア。

「左は～つと、へえ、トイレか。」

トイレを見渡してからドアを閉めて、左に向ひつと進むと前にかごがあつて右にドアがあつた。

ガラッ

「おおー、大きいバスタブ！」

中はタイル張りでシャワードビューバスタブ、石鹼とシャンプーやリンスもある。

「す」「…お風呂に入るのが楽しみにならやうなー！」

お風呂場からでて、右のドアを開ける。するとその部屋はリビングだつた。キッチンと冷蔵庫もついていて、ベランダままである。

「ほおお…」

「…何この大きいテーブル…す」「…」

「あ、棚の上にテレビもあるんだ。」

そんなことを言つていたらきりがないので「」は省略。

キッチンのドアを閉めて左に少し進んで右に少し進むと突き当つてドアがある。

「この部屋で最後か…長かつた。広すぎでしょ」の家…

力チャツ

「…お部屋だ。」

中は「じんまりした部屋だつたけど、この家で一番落ち着くのはこの部屋だつて思つた。」

本棚があつて、私の知らない本がたくさん入っていた。壁紙は白くて、勉強机があつて、紫とピンクの絨毯が敷いてあつて、小さなテレビがあつて、奥にタンスがあつて、その横に薄紫のベッドがあつて。

自分のお部屋だつて思えた。

## 1・4 光・ヒカリ・ひかり（後書き）

少し長めに書けたので良かつたです。  
次は彩花の過去を書きたいと思います。

彩花のシャドウどうしよう…

## 1・5 いつかの話（前書き）

更新は久しぶりです～（；；；）  
やつと話が進む…よかつた…。

彩花のシャドウは出しません。

## 1・5 いつかの話

回想

2009年3月26日、卒業式。

「 - 私たちは、未来に向かつて、今、羽ばたきます。  
『羽ばたきます。』

「そして

「彩花――!」

「うわっ！？」

いきなり友達がぶつかってきた。涙目で。

「ううー、彩花ひつ越しちやうんでしょ……いかないでえー」  
「ぶつかってきた子は河原千春。カワハラチハルベリー・ショートの女子野球部。

「え、ちょ、落ちついて…」

「彩花ー？つてうわ…大丈夫？」

今来た子は高倉花織。タカクラカオリ一結びの女子バレー部。

「うん、私は大丈夫だけど千春が…」

「…あたしも大丈夫。」

「…そう。なら早く来て！岩里先輩来てるよー。」

「ほんと！？早くしないと、行こ、彩花！」「

「あ、うん！」

先輩の名前は岩里希実。イワザヒノゾミ。ポニー・テールの髪が長い、高校1年。

「先輩…！」

「希実先輩！」

「岩里先輩！」

「花織、千春、彩花！久しぶりー！」

「来てくれてありがとうございますー！」

「うん。ああそうだ。卒業おめでとうー。」

「ありがとうございます。」

「3人とも同じ高校なの？」

「あ…、花織と千春は同じなんですけど、私は違うんです。引っ越しで…」

「…そつか。でもメアド持ってるんだし、いつでも話せるよー会おうと思えば遠くても休み使えば会えるし。」

「そうですね。」

回想終了

あれからもう1年半、連絡はちょこちょこ取っていたけれど、この世界に来てしまってからは、もうメールもできない。  
暗い場所に置き去りにされた感じがした。

## 1・5 いつかの話（後書き）

あれ、暗い…？

次は感想ですよ。へへつ

それに、すこしたつたら更新します…

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0550z/>

---

ペルソナ4の世界へ…

2011年12月31日17時48分発行